

市民海外レポーター瀧和子さん（ドミニカ共和国）
派遣期間 H29.10～H31.10

カリブの島より... vol. 3

ドミニカ共和国 瀧 和子

こんにちは。

JICA シニア海外ボランティアでドミニカ共和国に滞在中の瀧でございます。

ドミニカ共和国での配属先、サント・ドミンゴ自治大学芸術学部でのことを今回は書こうと思います。

現地の言葉（スペイン語）では Universidad Autónoma de Santo Domingo といい、略して UASD、発音すると「ウアス」（スペイン語では語尾の d はほとんど発音しません）になります。創立が西暦 1500 年代にさかのぼる、北中南米大陸で初めてできた歴史ある大学で、現在は学生約 12 万人（全国の分校を含む）を擁する総合大学です。

この大学の芸術学部舞台芸術科および音楽科で活動しています。



（日曜日に撮ったので入口が閉まっています）

まだ舞台芸術科と音楽科の写真がないので詳しくお見せできないのが残念なのですが、撮影許可をいただきましたらまた掲載したいと思います。

ここは日本の音楽大学や音楽楽部とはあまりに環境が違います。

まず、ピアノがほとんどありません。

ないわけではないのですが、以前、どこからか寄付をいただいた小さなアップライトが 5、6 台あるだけです。そのうちでもまともに使えるのは数台、その数台を調律し、整備

市民海外レポーター瀧和子さん（ドミニカ共和国）

派遣期間 H29.10～H31.10

しながらどうにか使っている状況です。

ピアノは実は非常に繊細な楽器で、ちょっとした気候の違いで音や構造に影響が出てしまいます。ヨーロッパ製のピアノを日本で使うのも、湿度温度調整にかなり気を遣わなければならないくらいです。ですから、日本やアメリカ、ヨーロッパから運ばれてきたピアノがこの熱帯の島で生き続けるのは非常に難しいことで、そのため、せっかくのピアノも壊れてしまったり、インテリアにしかならなかったり、ということになってしまっております。

実は日本の某ピアノメーカーが熱帯仕様のピアノを製造しており、中南米諸国にシェアを持っております。これを使うのがここドミニカ共和国ではベスト、というところですが、ただ、やはりそれなりに高価なもので USD にはまだ入っておりません。

ピアノなしで音楽科の授業を執り行う。

想像つくでしょうか。

ここで大活躍しているのは、実はリコーダーです。

そう、日本でも小中学校の音楽の授業で使うリコーダーです。

ここではソプラノリコーダーとアルトリコーダーを使っています。

メロディをリコーダーが吹き、その音を頼りにみんなで声を出します。

そうやって音楽を奏で、音楽をつくります。

ところで、ここの学生は非常に高い身体能力を持っています。

それは、ガタガタの道を難なく歩き回ることから培われる能力なのか、彼らの文化であるメレンゲから養われるものであるのか、たぶんその両方だと思われませんが、ふだん、これといってスポーツをするわけではない学生たちですが、筋力や反射神経やバランス感覚が非常に優れています。これは芸術には大変有利です。

だからか、彼ら彼女らが歌う歌は、非常に音程がいいのです。

音楽の授業の中の歌だけでなく、そのへんでわーわー声を張り上げて歌っている人の歌も、声がきれいで音程が良い。だれが教えたわけでもないのに音程が良い。

この人たちは使える！！

市民海外レポーター瀧和子さん（ドミニカ共和国）

派遣期間 H29.10～H31.10

わたしは学内を歩き回りながら狂喜乱舞したのです。

あるとき学部長と話をしました。

わたしは日本から、国際協力機構（JICA）から国際支援ということでドミニカ共和国にやって来ましたが、ここの学生の音楽の基礎力が非常に高く、わたしはこれ以上何を教えたらいいのかわかりません、と言いました。すると学部長は、

「学生たちを motivación してくれ」

と言いました。motivación とは、動機付けとか、刺激とか、そういう意味です。

意識すると、

「学生たちの心に火をつけてくれ」

となります。

「彼らはプロになることを目指しているのですか？」

「そうです」

「世界的な？」

「そう考えています」

「そうですか。それならお力になれると思います」

どっちも強気です。（^^）

わたしはまだドミニカ共和国のすべてを見て知っているわけではないのですが、少なくともわたしの目に映るこの国の人々は発展途上ならでは、右肩上がりのすさまじいエネルギーに満ちています。

彼らの音楽学生としてのレベルは、はっきり言ってまだまだです。音程はいいのですが、音楽をつくるという作業においては荒削りで、世界レベルにはまだほど遠いです。本気で世界を目指すなら、学ばせなければならないことがたくさんあります。

陽気で楽天的、熱しやすく冷めやすい、楽しいことにはエネルギーが豊富だけど、地味で地道な作業を好まないこの国の人たちに、非常に限られた環境のもとで、必要な技術や知識をどうやって伝授していくか、知恵と工夫が必要です。教えるわたしの腕の見せ所、というところです。

ご一読ありがとうございました。次号へ続きます。